

徹底、担当看護師、各部門、ボード担当職員がそれぞれの役割を十分に認識し、より正確で迅速に対応できる傷病者ボードとして活用していきたい。

II. 医師関連部門

1 現場救出に難渋し、ヘリコプター搬送後に救急室でレスキュー隊とともに救出活動を行った、耕耘機巻き込まれ事故による多発外傷の1例

田中 敏春・広瀬 保夫・宮島 衛
木下 秀則・飯沼 泰史・山崎 芳彦

新潟市民病院救命救急センター

症例は67歳の男性。農作業中に誤って耕耘機に体が巻きこまれた。救急車が要請されたが、耕耘機と患者とを引き離すことが困難であったため現場よりヘリコプターを要請した。受傷から3時間5分後に当院救命救急センターに搬送された。来院時、意識レベルは問いかけにうなづく程度で発語できず。呼吸は促迫、皮膚は冷汗著明で橈骨での脈は微弱でショック状態であった。当院救急外来でレスキュー隊とともに約1時間かけて耕耘機と患者とを引き離した後に、直ちに手術室に搬入し小腸損傷に対して切除術、右下肢開放骨折に対して洗浄、デブリードマン、開放性骨盤骨折に対して両側内腸骨動脈塞栓術（TAE）を施行した。術後、集中治療を行い徐々にではあるが全身状態は改善し一般病棟へ転室した。耕耘機、トラクター事故では、現場状況が救出に困難である場合が多く、今後迅速なヘリコプター出動の必要性が増してくると思われる。

2 経皮的心肺補助（PCPS）と肺動脈血栓吸引術により救命された重症肺塞栓症の1例

菖蒲川由郷・木下 秀則・宮島 衛
田中 敏晴・広瀬 保夫・飯沼 泰史
山崎 芳彦・山浦 正幸*・三井田 努*
小田 弘隆*

新潟市民病院救命救急センター
新潟市民病院循環器科*

〔症例〕患者：59歳，女性。

主訴：呼吸困難。

職業：料理店（立ち仕事中心）。

現病歴：2003年5月3日イベント参加（長距離歩行）。5月5日夕に胸痛出現したが自然に軽快。5月6日午前、台所で倒れていたところを夫が発見し救急要請。救急隊到着時JCS 3，チアノーゼ，頻呼吸，発汗著明で当院搬送。

現症：身長160cm，体重67kg，BMI 26.2，意識JCS 10，GCS 12（E3V4M5），体温36.3度，収縮期血圧52mmHg（触診），脈拍102bpm，呼吸数42bpm（促迫），SpO₂：84%，チアノーゼ著明，頸静脈怒張著明。

【検査】（血液ガス）pH7.300，PCO₂ 54.8 mmHg，PO₂ 11.4mmHg，HCO₃ 26.4mEq/l，BE - 0.8mEq/l。

胸部レントゲン：右横隔膜挙上。

心電図：特異的所見なし。

心エコー：右室負荷所見あり。

臨床経過：エコー所見から肺塞栓を疑い，診断の為に造影CTを行おうとしたところCT室で心停止となった。蘇生を行いながら救急外来でPCPSを導入。心臓カテーテル検査室で肺動脈血栓吸引術施行。ヘパリン静注，ウロキナーゼ静注を併用した。永久下大静脈フィルターを留置し，経過良好にて第28病日，独歩退院。

【まとめ】今回，私達は経皮的心肺補助（PCPS）と肺動脈血栓吸引術により心停止を来すほどの重症急性肺塞栓を救命した。